



◆ 野外オペ「テーレン」その⑦

14日、帰還日。6:00起床。昭和基地からの無線で12時ヘリ到着の連絡。朝食後、キャンプサイトの撤収に掛かりました。研究器材を丁寧に箱詰めし、テントも協力しながらたたみます。本来は、次のオペ地へ向かうはずでしたので、食料品等もかなり残っています。総重量は800kgくらいになるのでしょうか。ヘリの運搬があつてこそその野外オペレーションだと改めて認識しました。ヘリを待つ間、白水、川又隊員は石を円形に並べてヘリポート作り、その後、記念にと「JARE 57」と石文字を描きました。そうこうするうちに12時。遠くから微かに響くヘリの音。テーレンチームにも安堵感が漂いました。ヘリ到着後、自衛隊員の協力のもと、速やかに物資をヘリに運搬します。そして、テーレンを後にしました。二度と来ることはないでしょう。テーレンさようなら。ありがとうテーレン。

飛び立って30分。昭和基地が見えてきました。私と白水隊員は一週間ぶり。土井、川又隊員は三週間ぶりの基地への帰還です。同時に、入浴も同期間ぶりです。しかも、後の二人は初夢ならぬ初入浴です。さぞ、忘れられない気持ちいいお湯の感触だったことでしょう。地圏チームの皆さん、お疲れ様でした。

ここで一句 「ヘリの音に心躍るや波立や」



準備・運搬・片付け。研究は地味なもの。



見えますか？「JARE 57」



一週間ぶりのCHヘリ



昭和基地、しらせのお出迎え



地圏チームの皆さんと。任務完了記念写真。

◆ JARE57 隊員紹介

三戸 洋介 (35) 越冬隊 定常観測 (気象) 北海道出身
気象庁 観測部

道立札幌北高校より北海道大学理学部物理学科に進学。大学院修士課程に進み素粒子物理学を専攻。26歳で気象庁入庁。熊本地方気象台、長崎五島列島の福江測候所、札幌管区気象台を経て、現在、本庁勤務。気象庁に入ってから、南極に興味を持った。昭和基地では、高層気象観測 (毎日 2:30 と 14:30 の定時にゾンデを放球) やオゾンゾンデ観測 (52回 / 年の放球) に取り組む。基地では、望遠鏡で星空観察もしたい。趣味はアニメ鑑賞。皆さんへは「**努力は怠らず、かつ、身体を動かすにしても勉強するにしても、習慣付けておくことが大切です。そして、視野を狭めないように**」とアドバイス。帰国後は、庁内で色々な仕事をやってみたいそうです。



一夏にて。風呂上がりの三戸隊員。

◆ 南極トリビア

57次隊でヘリコプター (3機態勢) による野外オペレーションで訪れた場所は、ずばり何地点あるでしょうか？

南極授業をしっかりと聞いていた人には、簡単ですよ。

- ① 約8地点 ② 約15地点 ③ 約20地点 ④ 約26地点



CHヘリ。2機態勢。



ASヘリ。1機態勢。